



「日本曹洞第一道場」額字／後円融天皇宸翰／紙本墨書／縦 104.0×横 24.7 cm／南北朝時代（14世紀）

本書は、永平寺の寺伝によれば、応安5年（1372）に後円融天皇（1359～93）が永平寺に下賜した勅額といわれるものである。「日本曹洞第一道場」と大書される。この応安に下賜された勅額・綸旨は、文明5年（1473）に起きた永平寺での火事により、紛失してしまったという記録がある。その後、永平寺は永正4年（1507）に、後柏原天皇（1464～1526）から勅額を下賜されている。その額には「本朝曹洞第一道場」と記されていた。天文8年（1539）、永平寺は再び朝廷に綸旨の下賜を求め、後奈良天皇（1496～1557）綸旨が出されることになる。応安5年の勅額・綸旨がともに紛失されたのであれば、本額は後円融天皇筆ではありえない。永正4年の勅額には「本朝曹洞第一道場」とあることから、これと文字の異なる「日本曹洞第一道場」とある本額は、むしろ天文8年に後奈良天皇に下賜されたとする想定が成り立つであろう。